

目次〔下〕

第七篇——齋戒と潔齋

1

神宮の齋法と祭祀 藤岡好孝(他談)

2

齋戒の規程 不文律を身につける 齋戒の不文律 潔齋の作法 御開扉とお掃除  
厳重な忌の伝統 神あるのみの祭り 歴名と大祓 尊い火種

潔齋と祭式のあり方 杉谷房雄(談)

22

風呂場と潔齋所 祭式の画一主義 習礼の徹底を期せよ 厳修して規定違反 感  
銘深い事ども

厳重な賀茂の潔齋 井出岩多(談)

33

特殊神事と官祭との関連 賀茂祭の秘儀 潔齋の施設と方法 独特の御遷座

出雲国造の齋戒 千家尊宣(談)

47

千家国造の潔齋 姿なき御神幸 千家国造の三伝統 古伝新嘗祭の古例式 おわ  
りに

後の手水 高沢信一郎

58

生命がけの一年祢宜 後藤森一

61

第八篇——齋戒と祭り

63

齋戒と神幸の謎 阿蘇惟友(談)

64

阿蘇の齋戒はやかましかった 神社の特殊服忌令 御遷座願ってお祭りする 神婚の五穀豊穰 二つの御旅所(御田植神幸式) 二カ月の別火  
 三山の御深秘 小野祖教 76  
 三山の合祭殿 御深秘の齋戒 御深秘の食事 服装その他 内部はうかがえない  
 御屋根替と鷲の羽 南蛮いぶし  
 津島祭と齋戒 伊藤晃雄 82  
 神職の齋戒 車屋の齋戒 市江車の齋戒 車屋  
 齋戒と八里の神幸 満井成吉(他談) 86  
 如在の礼 予備神饌の作法 生命がけの潔齋 教化活動との矛盾  
 生きた祭祀学 水無瀬忠寿(他談) 92  
 猿田彦の水断ち 神職の潔齋 門杉を立てる 祭りのナイター時代 長く坐っているコツ  
 修行と信仰 伊達 巽(談) 100  
 三原聖人について 信仰が信仰をよぶ 御内陣は宮司の責任 拝むところに神は降る  
 簞笥のカンを縛る 額賀大興(談) 108  
 それぞれに厳しい祭り 長門住吉の御齋神事 穢を忌む  
 氏は真剣 木村幹彦(談) 115  
 千度拜 御旅所まじり 無言の参拝 神主は口を出さない  
 我が家の奉仕心得 安川忠正 119  
 神職の心構え(一) 神職の心構え(二) 神職の心構え(三) 齋戒に関する件 神饌調理

について 神饌調理帳 神饌の調理(補遺) 祝詞に関する件 御神宝、御調度、祭器買の事 装束の事 例大祭の準備 例大祭後の跡片付け 火急の際の心得 奉遷具について 背負い式簞笥について 祭式に関する事ども  
 信仰の山の祭祀 宮沢岩雄(談) 152  
 石清水と宇佐の齋戒 田中文清(他談) 159  
 石清水の勅祭 祭儀はかく行われる 宇佐の祭儀 祭祀の厳しき(秘伝)  
 氏子も半月の潔齋 原 巖雄(談) 179

## 第九篇 奇瑞拾遺

183

御復興と奇瑞 伊奈佐太男 184  
 飛驒一宮の例祭 上杉一枝(談) 187  
 齋戒と神祕 試染祭と後日祭  
 至誠あるのみ 河合繁樹(談) 191  
 神さまの御機嫌 神、神職、氏子一体 霊験はある 率先窮行あるのみ 悪いものは悪い 御出幣式——朝参の儀 神さまに詣ったか 199  
 祭典の神祕 吉松芳美(談)  
 長崎のお諏訪祭 御旅所で奉幣 お賽銭を磨く 御遷宮の神祕 恐ろしい無言神事  
 吉田神社の奉仕から 大爺恒夫(談) 207  
 祭儀とテンボ 現代の祭りと祭りの意味の明確化 菓祖神社と山蔭神社 吉田齋場所の憑物祈禱

夢中の奇蹟 野添篤義 218  
第一の奇蹟 第二の奇蹟 第三の奇蹟

## 第十篇 神職の心得 その一 223

神主かたぎ 好崎安訓(談) 224  
神主の冥利(寄附もらい) 菅居正也 227  
寄附集め つらくても修行 心得の数々 けんもほろろの相手 ありがたい神主の信用 冥利を感じる 233  
生きた祭りを 照本郁三(談) 233  
円座の上に仁王立ち 自信をもち、自重せよ 大切な十分、十五分の祭り 祝詞奏上と声 技術でない祝詞奏上 243  
氏子と共に祭る 森 重雄 243  
心のこもったお供え 御供米への理解 古い御神札処理の指導 問うもまた礼なり 御遷座の条件 臨機応変の前に 上座につく者 253  
手を洗って来い 横田 茂(他談) 253  
神社でちがう種々相 手を洗って来い 神事と潔斎 261  
祭りの作法と心得 長谷川秀夫(他談) 261  
社家の庭訓 先輩の教え 信仰の問題と体験 奉仕者の苦心 厳しい家憲を守る 限りなく問題がある 274  
ご退屈さまでした 千種宣夫 274  
御神体と神職作法 河田晴夫(他談) 278

形式に流れがち 内陣の清掃奉仕 見えない所を丁寧に 幽契を大切に

頂門の一針 河田晴夫 285

神殿の配置と祭祀 佐藤 東 286

幽祭で神社を復興 篠原四郎 288

特殊信仰と特殊心得 埴瑞比古 289

当社の特殊行事 拜殿御造営寄附金募集について 講社結成は神社発展上肝要である 崇敬者には官司の面接が必要である 祭場は椅子席より畳が落ち着く 当社の事業の菊花祭について 当社の献穀献爾祭について

私の祭礼手帳 山田勝利 293

新祭典の話 古式の直会式 不時の事ども 神主の家 296

神勤三十年 松橋泰彦 296

他人のめし 失敗の数々 その時は真剣だった 298

服装の見苦しさ 茨城県神職(談) 298

目立つ服装の乱れ 神葬の不統一 神饌のはなし 生活の区別 氏子の神事奉仕

## 第十一篇 神職の心得 その二 305

厳格な宮西教室 市川豊平(談) 306

先輩の教えを守る 佐伯幸長 309

当社と伝統 大麻の祓い方 天津祝詞の太祝詞 忌竹の内を祓う 玉串と神人一体 年餅を頂く

講社扱いの実例 横田 茂 311

経営の体験	吉田重福	316
神主の心得	須磨清宣	319
御供太鼓	香西大見(他談)	321
勤人神王	社家の斎戒 きまり切った奉仕 内陣奉仕は子供の役 何とか食えるものだ 奉仕これ行 常陸之介の祭式 祇候座 雨降り当番町 御錠の点検 ますます忙しい神職 高沢信一郎(他談)	330
徹底しない斎戒	三面六臂の活躍 新たな責任部署 端役も教化を担う	
祭祀と神職の姿勢	津江孝夫(他談)	337
変わった行事	斎戒潔斎の問題 触穢と便法 奕則の作法 祭祀と霊能	
土台は神職の養成	北川利次(他談)	350
社家を守る	須磨清宣	357
社家	清浄を守る家であること 伝統に生きる家であること 礼儀を重んずる家であること 明るい家であること 神棚祭と祖霊祭 竈祭について 火の浄め 奥さん方と衣紋 弔問のことなど お産のこと 母を憶う	
社家の庭訓	金原利道	366
緒言	社家世襲の意義 わが祖父とわが母 七、八歳で神饌の調理 弟を上座に 父の薫陶 病をおして 親族血縁一同無事 社家の家内は立派な職員 社家と 氏子は一体 厳しい日常の戒律と躰け	
我等は神職なり	A B C D(談)	379
根性を持つて	日々の修練 忘れたらアウト 有時にそなえよ	
神職心得帳	長谷晴男(他談)	385

新祭典について 事故ある時の心得 斎戒と潔斎心得 神職のエチケット 神職の家庭心得 その他の心得

## 第十二篇 研究

393

祭式基本語の研究	小野祖教	394
定義の必要	予備定義 それらは法令・規程の名である——神社祭式——法規的	
解説の欠如	祭祀令及び祭祀並びに本庁の祭祀規程 「神社祭式」と「祭式」	
むすび		
附録	官国幣社以下神社神職奉務規則	434
	関係法規・規程・著書内容比較表	